

ゆらのとを

第7期 OG 菊盛 真衣
(新姓 石井)

昨年4月に研究専念期間を終えて、大学教員として復活しました。研究専念期間中は、教育業務や校務は免除され、自身の研究に集中的に取り組むのが本来の過ごし方ではありますが、実質的には産休・育休に充てられておりました(苦笑)。とはいえ、復帰当時のムスメ氏は生後半年であり、絶賛授乳中ではありましたが、育児と両立しながらの教員生活が再始動しました。この1年間の奮闘と葛藤をここに記したいと思います！

◆育児と教育活動の狭間で葛藤する上半期

私のゼミではこれまでに3期生までを送り出してきました。3期までのゼミ生とはよく研究室で論文の相談に乗ったり、飲み会に行ったりと多くの時間をともにして、彼らの活動を支えてきました。それは、時間に余裕のあった、子どものいなかった頃の話。今の私にとっては、まずムスメ氏との生活があり、円滑に家庭を回していくことが最優先です。ゼミ生への指導はできる限りしてあげたいけれど、当然ながら今の私ができる範囲内しかできません。私の体感ではありますが、ゼミに費やす時間やエネルギーは以前の3分の1程度になった気がします。ゼミ生への研究相談や指導は大学院生に大きく任せるようにして、ゼミ生への成果物も高い水準の出来栄を求めなくなりました。最低限の品質が守られていればそれでいいというマインドに変えました。ゼミの飲み会はコロナ禍なので積極的に開催されず、開催されても私は夜の時間帯に家を空けられないし、感染予防の観点からも欠席してきました。今の学生からすれば、過去



2022年11月 7期白石くんにゼミに来てもらいました！ コロナ禍を経て3年ぶりの再会でした。

の楽しそうな菊盛ゼミの活動のイメージとはかけ離れた感覚を持っている気がします。私も学生との距離が随分と遠くなりました。先生、変わっちゃったなあと卒業したゼミ生には言われるかもしれないけれど、ここに至るまでも心の葛藤が幾度とあり、ゼミ生に求める及第点を下げること何度苦悩したか。家庭や子どもを持ったならこれが現実や！よくやってるぞ、自分！と声を大にして叫びたいです。

今までの自分のやり方では日常を回せないで、やり方や考え方を現実に適応させて変化させていくことは、想像よりも心苦しきとろろめたさを伴うものでした。学生にはもっとちゃんと指導してあげたいし、ゼミでの充実した思い出を作らせてあげたいという気持ちと、子どもと過ごす時間を何より優先したいし、少しでも時間と労力に余裕があるなら研究に向きたいという気持ちが衝突していました。幾多の葛藤を経て、今は子どもと過ごす時間を何より優先したいという価値観なんだと自分の中で落としどころをつけています。この価値観に従って、仕事や教育に自分のエネルギーを効率的に配分し、家庭に齎寄せがなるべく来ないように、何事も今の自分の出来る範囲内でやろう、それで十分 OK と思えるようにやっとなりました。子どもはあつという間に成長するし、少し経てば親を必要としないで自分で歩いていくようになります。その時までには子どもとの時間を楽しみたいし、子育てに没頭したいと思っています。研究や教育へ割く時間は、子どもの成長に伴って増えるはずなので、その都度バランスを調整すればいいだけの話。もっと気楽に構えてやっていこうと思ひ至りました。

◆守りから攻めの姿勢へと振り出した下半期

育児と教育活動の両立に苦勞しつつ、それが軌道に乗ってきたタイミングで、消費者庁のステルスマーケティングの規制を検討するための会議への参加要請をいただきました。ステルスマーケティング、通称「ステマ」という語を皆様はご存じでしょうか？ステマとは、広告主が自らの広告であることを隠して広告出稿することを意味します。例えば、SNS でインフルエンサーが商品を勧める口コミを投稿してるけど、実はそれが純粋な口コミではなくて、企業から依頼されて投稿した宣伝だとしても、私たちはそれに気づかずにその商品を買ってしまうかもしれません。でも、広告だと分かっていたら、冷静に情報収集をして商品の良し悪しを判断できたはずで。ステマは、本当は広告であるのに広告ではないように見せることで、消費者の合理的な購買意思決定を阻害するところに大きな問題があると考えられています。さらに問題視されるのは、OECD 加盟国の中で日本だけがステマへの規制を持たないという実態です。日本はステマ・ヘブンとも呼ばれ、海外の大手企業が日本の消費者だけにステマを行った事例も存在します。こうした問題状況を背景に、昨年 9 月消費者庁がステマ規制に向けた検討を開始しました。法規制は全くの門外漢ですが、私はマーケティング専門家として検討会に参加する次第となりました。検討会では、様々な専門家間で密度の高い議論が重ねられ、昨年末に報告書案がまとめられました。ステマを不当表示に類するものとして景品表示法の規制対象にすることが提言されています。

過去にも政府が主導する有職者会議に参加要請を受けたことがありましたが、今回の検討会の経験は、私にとって非常に良い刺激となりました。まず、自分の専門性をもっと磨いていきたいと思うきっかけを

もらいました。インターネット上のクチコミにずっと研究上の関心を寄せていますが、より最近ではソーシャルメディアのインフルエンサーのクチコミにも関心を広げています。今回の検討会を通じて、新たな研究テーマの着想を得ることができましたし、自分のトピックに関しては専門家として自信をもって振舞えるようにもっと精進していきたいと思うようになりました。そして、こちらの方が重要なのですが、自分の熱量をもっと高めようという気にさせられました。これは、消費者庁の担当者の方がステマ規制にとにかくアツイ人だったからという単純な理由なのですが（笑）ステマを何とかしたいというその一心で奮闘しており、その方の熱量の高さに不思議とこちらも熱を帯びてくるという体験がありました。ステマ規制の是非は置いておいて、そういうアツイ人と仕事をしたことで、私自身がとてもポジティブな気持ちで仕事に向き合えました。物事も、人の心も、動かしていくのは、やはり人の情熱だと改めて感じさせられました。自分のポジションの安定や、育児との両立という制限の中で、自分の情熱が心なしか弱火になっていたんですが、今回の経験を通じて、もっと心の炎を燃やして火力を上げていこうと謎のモチベーションを高めています。

さて、今回のエッセイのタイトルは、「由良の門（と）を 渡る舟人 かぢをたえ ゆくへも知らぬ 恋の道かな」という歌からつけました。この歌は、由良川の河口の流れが速くなっているところを漕ぎ渡る船頭が櫂（かい）という船を操る道具を無くして行く先も分からずに漂っていく様子と歌手の先行きの分からない恋の道行きを重ねたものです。恋の道ではないけれど、仕事と家庭の狭間で揺れ動きながら、自分の道行きがどうなっていくのか分からない戸惑いや迷いをもった今の自分の気持ちをうまく捉えているように感じています。しかし、ムスメ氏の日々の成長を目の当たりにしているおかげで、迷いながらも前に進んでいるという確かな手ごたえがあります。毎日、1日を生き抜くことに必死ではありますが、その分とても楽しく過ごしています。子どもに育ててもらって、私はただの大人から、親にならせてもらっているとつくづく感じる今日この頃です！



2022年12月 芝生を見ると寝たくなる著者
ムスメ氏とよく芝生でゴロゴロしています。